

■「市高版・相互評価活動」の評価規準

学習者同士の発表を相互に評価し合う「相互評価活動」は、事前に設定した評価規準を用いた得点評価に発表全体に対するコメント評価を付す形式で実施している。得点評価は、各評価規準について満たしている場合は1点、満たしていない場合は0点として評価するように指導している。

(1) 科学探究科1年生で用いた評価規準（「探究プログラムⅠ」で使用）

No.	評価項目	評価規準
1	内容	必要な内容を全て正しい順番で示している。(タイトル、背景・目的、仮説、実験内容(手法や材料等)、結果、考察、結論、展望、参考文献)
2	レイアウト	フォントの種類や大きさ、色が統一され、はっきりと見えるように工夫している。
3		図表を適切に用いて文章を端的にまとめることで、視覚的に理解しやすい構成にしている。
4	タイトル	簡潔な文章でわかりやすく研究内容を表している。
5	背景・目的	研究の理解に必要な事前情報等の既知の内容と未知の内容がそれぞれ違いがわかるように示されている。
6		実験内容が目的と合致している。
7	仮説	既知である前提(先行研究や予備実験の結果、科学的な原理・法則等)から仮説が導かれている。
8	実験内容	実験の様子がわかる写真や図を用いて、どのような実験を行ったかわかりやすくまとめられている。
9	参考文献	複数の文献が示されている。
10	結果	グラフとグラフタイトル(キャプション)で、実験結果がわかりやすく示されている。
11	考察・結論	実験結果と既知である前提(先行研究結果や科学的な原理・法則等)から自身の主張を説明している。
12	展望	これまでの研究を踏まえ、自身の主張の「確からしさ」を向上させるための実験内容となっている。
13	(コメント)	(自由記述)

(2) 普通科1年生で用いた評価規準（「SS 探究Ⅰ」で使用）

評価項目	評価基準
協働性	メンバーと役割を分担しながら活動を進めている。
	メンバー以外の生徒や教員、校外の人々に協力をしてもらいながら活動を進めている。
論理性	課題設定の理由(動機)や活動の目標が明確である。
	調査・実験により、「根拠」と「論拠」を得ている。
新規性・創造性	自分たちで考えた、独自の活動である。
	課題に対して自分たちの視点から仮説を立て、それを検証している。
実行力	調べるだけでなく、自分たちで活動を実践している。
	結果を問わず、粘り強く活動に取り組んでいる。
活動の内容	設定したテーマについて、その社会的背景や要因を調べ、理解している。
	自分たち以外に対しても有益な活動である。
プレゼンテーション能力	自分たちの活動に自信を持ち、堂々と発表することができる。
	質問に対して適切に受け答えすることができる。

(3) 普通科2年生で用いた評価規準「探究の地図」（「SS 探究Ⅱ」で使用）

評価項目	評価基準
コラボレーション Collaboration	チームメンバーのそれぞれの強みを生かした活動である。 活動を分担して進めている。
コミュニケーション Communication	計画的にフィールドワークを実施している。 スクリプト(原稿)を見ずに発表ができています。
コンテンツ Contents	複数の考え方・コンテンツをつなげたり、かけあわせたりして活動を進めている。 どのような質問に対しても深い知識で対応できる。
クリティカルシンキング Critical thinking	「あたりまえ」を疑いながら活動している。 1つの仮説に対して、いろいろな立場からの見方・考え方をしている。
クリエイティブイノベーション Creative innovation	自分たちで考えた、独創性に富んだ活動である 活動内容を聞いただけでワクワクする。
コンフィデンス Confidence	根拠をもって、自分たちの活動内容に自信を持っている。 探究サイクル(問いの設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を回している。